

シルバー人材センターで配布中

「広報えびな」は毎月2回、市シルバー人材センターの会員が各家庭へ直接配布しています。お手元に届かない場合はご連絡ください。

☎ 同センター (☎292・0303)。

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 市長室

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎(046)231・2111 ㊚(046)233・9118

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>



声楽家による独唱

国分寺台地区

「お楽しみ茶話会」

去年6月、市内で最初に実施した国分寺台地区の「お楽しみ茶話会」。国分寺台自治会と同地域福祉活動協議会の主催で、小学生の合唱やひとり寄席などが行われました。秋には同所で「国分寺台ふれあい文化祭」も行われました。

交流のきつがけづくりに！

「地域ふれあい事業」スタートから1年

この事業は、昨年6月の国分寺台自治会を皮切りに、市内59自治会のうち56自治会が取り組み、2自治会が3月中に実施する予定(3月15日現在)です。

ほとんどの地域で参加者増

市では敬老事業の見直しの一環として、平成16年度まで高齢者を対象に行っていた「敬老のつどい」に代え、地域で開催する「高齢者地域ふれあい事業」を支援しています。この事業がスタートして約1年、活発に展開された各地域での取り組みについてお知らせします。

昨年度実施した「敬老のつどい」と比較すると、ほとんどの地域で参加者数が増えています。市内全域の参加者は約34%です。

各地域での企画や運営は、自治会を中心とした各種団体が行っています。小学生や中学生の合唱・楽器演奏、マジックショー、カラオケ、出席者が参加するゲーム大会など、各自自治会で趣向を凝らしたさまざまな内容。昼食をとりながらの歓談もあり、参加者の交流も図られています。

この事業の成果として主催者からは、
①自治会や民生児童委員、ゆめクラブなど各種団体との協力関係ができ、地域がまとまるきっかけづくりになった
②高齢者に対する関心と理解が深まりつつあるなどの声がありました。

定着するイベントに

今後、この事業を通じて地域の人たち(近所同士)の付き合いや世代間交流などにつながる地域の催しの一つとして、元気なまじ「えびな」実現のために今後定着していくことが望まれます。特に地域の人たちの交流は、防犯対策や防災対策でも重要になっていくと思います。

問 高齢福祉課
高齢者支援担当

参加者の声

《良かったこと》

- ・ 地域住民の交流を深めることができた
- ・ 友人の輪が広がった
- ・ 会場が近かったので参加しやすかった
- ・ 地域の諸団体相互の交流があった
- ・ 名札をつけて参加することで気軽に話げできた

《こうしたらいいな…》

- ・ 自分も参加するという意識で出席すると楽しめるのではないか
- ・ 他の地域との付き合いもしたい
- ・ マンネリ化しないように内容の見直しも必要
- ・ 事業の運営をマニュアル化すればよいのではないか

大谷地区

「敬老のつどい」



去年12月に行われた大谷地区の「敬老のつどい」では、中学生の合唱やリコーダー合奏、大谷婦人会の大黒舞(写真)などが行われました。